

横浜YMCA 夢すくすく特別賞 助成事業
「北タイ帰国女性のエンパワメント公演」

活 動 報 告 書

2009年7月1日～6日

YMCA パヤオセンター



劇団プレイバックーズ

1. 成果 ～ みなさまのご支援で実現できたこと ～

①現地 3 日間で、プレイバックシアターという手法を通して現地スタッフ、女性、子どもをエンパワーできた。

・今までは、女性、子どもたちが、共に時間を過ごしていながら、お互いの事情をよく知らなかった。あるいは、知っていても深い感情部分までは、共有できずにいた。しかし、今回ストーリーを通して、それぞれの背景を知り、深い感情も表出でき、理解が深まった。

・参加者が涙を流すシーンが何度も見られた。

②今後に向けて、彼ら自身でプレイバックシアターを使いこなせるよう方向付けできた。つまり、単発の1回限り、その場限りのものでなく、「プロジェクト」としてソーシャルチェンジの継続性をはかれた。

・現地スタッフと来年度以降、どのように進めていくかを話合うこともできた。

③日本国内にて現状を浮き彫りにし、問題を表面化できた。また、自分たちを含め、多くの人の理解が深まり、知識が増えた。国内でのネットワークが広がった。

・当初は少しずつだった支援の輪が、しだいに大きなものになり、予定していた支援額を達成することができた。

2. プロジェクト 経過一覧

日 程	内 容	備 考
2008年2月11日	横浜YMCA夢すくすく特別賞 授賞	
2008年3月29日	寄付金呼びかけ開始	プレイバックーズ自主公演Vol.18にて
2009年5月19日	チャリティワークショップ&公演実施	主催 Asia Proactive Partners HRIビジョンハウス 会議室
2009年5月27日	第1回 チャリティ公演 実施	横浜中央YMCA9階チャペル
2009年6月1日	第2回 チャリティ公演 実施	横浜中央YMCA9階チャペル
2009年7月1日～6日	タイ公演&ワークショップ	YMCA パヤオセンター
2009年7月28日	第1回 報告会 開催	横浜中央YMCA9階チャペル
2009年8月27日	第2回 報告会 開催	HRIビジョンハウス 会議室

<協賛>

横浜YMCA夢すくすく特別賞 助成事業

株式会社 HRインスティテュート

Asia Proactive Partners

株式会社ヒューマンウェア

ありがとうインターナショナル

<参加者>

猪瀬隆次、佐藤久美子、丹下一、宗像佳代、松野仁(記録)

3. 施設スタッフ13人を対象とした ワークショップ&パフォーマンス

■日時 2009年7月2日(木) 9:00~16:30

■内容

1. 即興による再現ドラマ (手法 ストーリー)

・「疲れ果てて」

作事中に両親が事故にあったと連絡があった。しかし、職場をすぐに離れられない状態だった。バンコクまでたどりついた時に、父は既に亡くなっていて母も負傷していた。父の葬式などの後始末をしている間、2歳と6ヵ月の子どもは夫が面倒をみてくれていた。片付けなど忙しくしているうちに妊娠したが、7ヵ月の時に死産した。仕事がとても忙しい時期で、身も心も疲れ果て、心ここにあらずで過ごしていた。

・「広がりゆく役割」

このプロジェクトや開発事業を他のNGOや行政に紹介し、認められていることが、とても幸せである。私が、こちらに赴任したのは、農業開発が仕事の主な目的だった。その後、それだけでなく、子どもたちの生活や教育がより良くなるようにやってきた。自分だけでは困難だったことも、スタッフ仲間と協力してやってきた。今では子ども議会もある。もっともっと良くしていけると思う。

・「悲しみの中で」

先生を対象にした研修会があった。父の具合が悪く、これが最後になるのではないかと怖かったが、出席することにした。パヤオでの研修が始まってから電話があり、父が亡くなったことを知った。とてもショックで悲しかったが、研修中に自分の感情におぼれていることは憚られた。そんな状態の私を他の先生や仲間たちが気遣ってくれ、心のケアをしてくれた。そして、やっと落ち着くことができた。

2. 参加者の感想

- ・ストーリーを聞いてかわいそうだと思った。悲しい。 ・語った方の気持ちに寄り添うことができた。
- ・語った人に頑張ってもらいたい。 ・仕事も頑張ってもらいたいという気持ちになった。
- ・仕事と家事の両立は大変。 ・仕事で疲れて帰っても、夫とのひとときが幸せ。

■ 会場の様子



4. 帰国女性(リターナー)27人を対象とした ワークショップ & パフォーマンス

■日時 2009年7月3日(金) 9:00~16:00

■内容

1. 即興による再現ドラマ (手法 ストーリー)

・「新しい世界」

友人のおかげでYMCAとも繋がれて、新しい生き方ができるようになってうれしい。

・「自立」

YMCAのおかげで職業を持つことができ、自立できた。豊かな暮らしができるようになってうれしい。

・「還る」

マレーシアに7年いた。タイ人のママにピンはねされていた。友人に助けられて逃げた。

何ヵ所か転々とし、2年がかりで帰国した。

・「長い年月」

日本に行って21年も経ち、やっとの思いで帰ってきた。そこでは、全く自由がなく軟禁状態だった。食事は2食を強要された。17年目で友人に助けられた。自転車で買い物に行っているときに、警察の尋問にあい、パスポート不携帯から身元が知れてしまった。母を通してYMCAとのやりとりが始まったが、帰国するまでにさらに2ヵ月かかった。

・「家族」

ラッキーなことに私はお金を持って帰ってこられた。そのお金で親のために家を建て、車を買って、田んぼも買った。今は、両親と甥2人と暮らせてうれしい。みんなでご飯を食べているときが一番うれしい。

甥は両親がバンコクに出稼ぎに行っていることもあり、私を母のように慕っている。

2. 参加者の感想 (一部抜粋)

<帰国女性より>

- ・皆さんと出会えてうれしい。 ・心のなかに引っ掛かっていた問題を聞くことができて良かった。
- ・今度、同じような体験をしている人に出会ったら、サポートしたい。 ・ありがとう、幸せ。
- ・家族のように考えてくれているのがわかりうれしい。 ・胸につかえていたストレスが心地よく抜けた。
- ・感覚、気持ちがとても良くなった。 ・感情の動きが激しかった。笑った、泣いた。

<スタッフより>

- ・皆さんの幸せな姿が見られて何よりだった ・笑顔になって良かった
- ・感謝。初めて会ったが、気持ちが通じ合えた

■会場の様子



5. 中学生・高校生34人を対象とした ワークショップ&パフォーマンス

■日時 2009年7月4日(土) 9:00~15:00

■内容

1. 即興による再現ドラマ (手法 ストーリー)

・「学校へ行けない」

小さい頃、村で友達と遊ぶことが楽しかった。学校に行く年齢になり、一緒に遊んでいた友達は、学校に行ったが、私は行けなかった。友達について行くことはあったが、自分だけ勉強する場に入れてもらえず、校内でポツンと待っていた。親が貧しくて、学校に行くお金がないから勉強できないのだと思って悲しかった。

・「父との別れ」

9歳の頃、父と2人暮らしだった。父は酒浸りの日々で友人を招いては飲んでいて。私は、学校にも行かず、家にいた。ある時、YMCAのスタッフが父親のところに来て、私の将来を相談した。そして、私はYMCAで暮らしながら、学校へ行くことになった。父との別れが本当につらかった。寂しかった。

・「新たな経験、新たな仲間」

学校に行かず、父親の手伝いや家事をして暮らしていた。学校の先生から、「YMCAの支援を得れば、学校へ行って勉強ができる」と言われた。家族と別れるのは寂しかったが、YMCAに来てから、いろいろなことを体験している。家には田んぼがなかったので、農作業も知らなかったが、ここでは田んぼの作業ができる。お料理も教えてもらえる。友達と一緒に何かをやるのが楽しい。何か問題があってもスタッフや友達で相談し、解決できる。まるで家族のような温かい関係があるので、今はここに居ることがうれしい。

・「日本の浴場」

YMCAのイベントで日本を訪問した。日本の文化については、事前学習があり、お風呂についてのことを聞いていた。実際に公共施設の大浴場を見てびっくり。日本人が堂々と全裸で入浴しているのを見て驚愕。恥ずかしくて、あわてて出てきた。

2. 参加者の感想 (一部抜粋)

- ・自分自身がよりよく成長できたと思う。 ・今日の体験で学んだこと、気持ちや感情を表すことを今後の表現活動に生かせる。 ・テラーになった時に、自分の気持ちがそのまま表現されていて感動した。
- ・子どもに接していても、彼らの本心を理解することは難しい。今日は、初めて会った子どもたちなのにどんな気持ちなのか良くわかった。この手法をほかの場所でもやりたい。

■会場の様子



6. 小学生7人を対象とした ワークショップ&パフォーマンス

■日時 2009年7月4日(土) 15:00~17:00

■内容 アシスタントとしてスタッフ、高校生が参加

1. 即興による再現劇 (手法 ストーリー)

・「村での暮らし」

村では友達とたくさん遊んだ。魚は手づかみで取れた。鳥も撃ち落とした。簡単に捕まえられて楽しかった。捕まえたものを友達と食べるのもうれしかった。

・「母との別れ」

父が死んで母と2人暮らしだった。学校には行っていたが、先生が教える時間も限られていて、あまり勉強もできなかった。近所の方が私の状況を心配し、YMCAのスタッフが母親のところに来た。

そしてYMCAで暮らし、きちんと学校に通うことを勧めた。母との別れは、つらかった。心が壊れるほど、悲しかった。

2. 参加者の感想 (一部抜粋)

<小学生より>

- ・面白くて楽しかった。
- ・友達のお父さんが亡くなった話を聞いて悲しかった。
- ・小さい頃に戻りたいと思った。

<スタッフより>

- ・子どもたちの深い気持ちを知ることができた。これからもこの手法を教えたい。
 - ・聞いたものをすぐ表現できて成長した。今後は友人にも教え続けていきたい。
 - ・とても緊張し、わくわくした。まるで自分も子どものような気分になった
 - ・子どもたちが、笑顔になり、笑ったのが良かった。
 - ・ひとつの場にいられて良かった。
 - ・いろいろな役をできてうれしかった。
 - ・重いストーリーだったが、テラーをした子は、強い子だから大丈夫だと信じている。
- 大人になっていくうえで何かを話していくのは大切。お互いが成長できる。話をすることで友達になれる。

■会場の様子



7. 決算表

収 入	助成金		100,000円	
	寄付金	2009年7月28日 現在	898,463円	
支 出	海外活動費	移動費	361,099円	
		パヤオ諸経費	69,977円	
		その他	14,628円	
	合 計		445,704円	
	国内活動費	交通費	69,340円	
		会場費	41,400円	
		その他	54,155円	
		合 計	164,895円	
	収 支			387,864円

*国内、海外活動費とは、交通費、宿泊費、会場費、通信費などの諸経費です。

*余剰金は、来年度へ繰り越します。

*詳細をご覧になりたい方は、お申し付けください。